

平成 17 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー
代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者
吉田 博昭
(J A S D A Q ・ コード番号 : 4358)
問 い 合 わ せ 先 常務取締役経営企画部長兼グループ執行役員
繁松 徹也
電 話 番 号 03-5434-1586

平成 17 年 9 月期中間期 (連結 ・ 単独) 業績予想の修正について

平成 17 年 9 月期中間期 (平成 16 年 10 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 16 年 11 月 24 日付「平成 16 年 9 月期決算短信 (連結)」および「平成 16 年 9 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。なお、本開示における決算数値等は監査法人による監査前数値であるため、監査後決算数値等とは必ずしも一致いたしません。

記

1 . 平成 17 年 9 月期中間期 (連結 ・ 単独) 業績予想の修正等

(1) 連結業績予想の修正について (平成 16 年 10 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)

当期におきましても、株式公開以前よりの事業戦略である「マルチブランド戦略」が着実に実行され、平成 16 年 9 月期中間期時点で 17 社のグループが平成 17 年 4 月 30 日現在 23 社のグループに拡大しております。このようなグループの拡大により、映像コンテンツ事業のポートフォリオともいべきこの仕組みが本格的に機能し始め、グループ個社の事業収益の波に大きな影響を受けることなく、連結ベースでの収益を着実に拡大してまいりました。

また、グループの更なる収益拡大を目指し、受託型事業に加え、映像コンテンツ投資事業にも注力いたしました。当中間期におきましては順調な結果となりました。

この結果、平成 17 年 9 月期中間期の連結売上高は 9,170 百万円と前年同期比 136%の増収、連結経常利益は「マルチブランド戦略」の実行による M & A 費用や映像コンテンツ投資に関する無形固定資産償却を吸収したうえで、690 百万円と前年同期比 172%の増益、連結当期純利益は過年度役員退職慰労引当金 (平成 17 年 9 月期で引当完了) を吸収したうえで 260 百万円と前年同期比 275%の増益となる見込みであります。なお、販売費および一般管理費には、M & A による営業権および連結調整勘定償却 110 百万円が含まれております。

下期におきましても順調な受注状況となっており、通期業績予想を上方修正できる状況ではありますが、平成 16 年 11 月 24 日付「平成 16 年 9 月期決算短信 (連結)」にて発表いたしました通期業績予想は、平成 17 年 9 月期第三四半期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日) の受注状況および平成 17 年 9 月期においてグループ化した 3 社 (株式会社ゆめ太カンパニー、OK プラン & プロデュース株式会社および株式会社 5 p b .) の業績を加味し、平成 17 年 9 月期第三四半期決算発表時に業績予想の修正を行う予定であります。

(2) 平成17年9月期連結中間期(平成16年10月1日~平成17年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	7,800	470	55
今回修正予想(B)	9,170	690	260
増減額(B-A)	1,370	220	205
増減率(%)	17.5	46.8	372.7
前期実績(平成16年3月期)	6,698	399	94
対前年同期比(%)	136.8	172.5	275.0

(参考)1株当たり予想当期純利益(平成17年9月期中間期) 9円71銭

(注)なお、1株当たり予想当期純利益(平成17年9月期中間期)は、平成17年9月中間期末発行済株式数26,775,418株(自己株控除後)にて算出しております。

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
平成17年9月期通期予想	16,800	940	240

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 8円96銭

(注)なお、1株当たり予想当期純利益(通期)は、平成17年9月中間期末発行済株式数26,775,418株(自己株控除後)にて算出しております。

(3) 修正理由

当中間期におきましては、連結子会社数が前年同期の16社から21社に増加いたしました。これは「マルチブランド戦略」が着実に実行された結果であるとともに、この仕組みが対外的にも機能し始めた結果でもあります。セグメント別の事業概況は、以下のとおりです。

広告映像事業

主にTV-CM制作事業に関連する6社につきましては、全社黒字計上となりました。前期にグループ化した2社(株式会社サツソフィルムズ、株式会社キラメキ)につきましても、黒字を計上いたしました。WEBコンテンツ制作事業に関連する2社につきましても、インターネット広告費の増加や販促面でのWEB活用の定着化により、黒字計上となりました。前期グループ化した株式会社ネクシスコミュニケーションズは、グループ企業とのシナジー効果が非常に大きく、大幅な増収・増益となりました。今期グループ化したOKプラン&プロデュース株式会社につきましては、下期から連結決算への損益加算となります。

エンタテインメント事業

エンタテインメント事業に属する8社のうち、5社が黒字計上となりました。コンピュータグラフィックス(CG)制作事業につきましては、ゲームのオープニング・ムービー制作やCG映画の二次使用による収益が好調な結果となりました。ゲームソフト制作事業につきましても、関連する2社ともに黒字計上となり、今後は製作投資も含めて更なる収益拡大を目指してまいります。音楽映像制作事業につきましては、映像コンテンツ投資等の先行投資負担が重く、赤字計上となりました。アニメーション企画・制作事業につきましては、2社ともに赤字計上となりました。制作の売上総利益率の向上、販売費および一般管理費コントロールおよび製作委員会への出資等を含めた総合的な利益水準向上を図っております。今期グループ化した株式会社ゆめ太カンパニーにつきましては、下期から連結決算への損益加算となります。

コンテンツ・ソリューション事業

コンテンツ・ソリューション事業に属する4社は、すべて黒字計上となりました。デジタルアーカイブ事業につきましては、事業拡大を狙ったカタログ制作等の広告宣伝費を支出いたしましたが、順調な業績となりました。ポスト・プロダクション事業や撮影関連事業は、広告映像事業におけるグループ売上高の拡大により、稼働率の向上や仕入れコストの削減が可能となり、増収となりました。また、企画・プロデュース事業を主とする株式会社ウルトラは、前年同期では、大幅な赤字を計上しておりましたが、経営陣の変更とビジネス面やコスト面での再構築を行い、大幅な黒字計上となりました。

(4) 単独業績予想の修正について(平成16年10月1日～平成17年3月31日)

TV-CM制作市場の回復に加え、昨年導入を行った疑似カンパニー制も本格的に機能してきた結果、大幅な増収・増益となりました。また、グループ会社数の拡大と収益改善により、グループ会社からの配当金収入も拡大してきております。今後も引き続き受注強化と利益率管理強化を図り、更なる収益構造の改善を目指して参ります。

(5) 平成17年9月期単独中間期(平成16年10月1日～平成17年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,700	240	100
今回修正予想(B)	3,120	400	260
増減額(B-A)	420	160	160
増減率(%)	15.5	66.6	160.0
前期実績(平成16年3月期)	2,773	237	120
対前年同期比(%)	112.4	168.2	216.6

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
平成17年9月期通期予想	5,680	400	190

以上